

書名ヲ記シ和名ニハ產地及ビ種類ノ異同等ヲ附載シテアル

○蟲譜(五卷) 小本

○魚譜(一卷) 勢海魚譜ヲ先生自ラ復寫セラレタモノデ海魚類八十四種ノ着色美麗ナ寫生圖デアル

○貝づくし浪の華(二卷) 上ノ卷ハ寫本デ豐文翁ノ筆ニ成リ紙數五十二葉、下ノ卷ハ版本デアル

翁ニハ一男一女ガアッタ長男侯賀ハ九歳デ病死シタノデ乃チ義子義三郎氏ヲ迎ヘ入レラレタ義三郎氏ニハ四女アツテ男子ハ無カッタ依テ義子助六氏(豐文翁トハ別デアル)ヲ迎ヘタ助六氏ニ三男ガアッタ即チ長男ヲ銚太郎、次男ヲ文應、三男ヲ光三郎ト稱シタ光三郎氏ハ現今名古屋市中區大池町一丁目ニ於テ吳服商ヲ營デ居ル回顧スレバ今大正十五年ヨリ實ニ百年モ以前ニ既ニ斯様ナ大學者ノ居タノハ蓋シ我日本博物學興隆ノ基礎トナツタデアラウト思フ、嗚呼自己ノ天職ヲ盡シタ大自然界ノ開拓者ハ永ク政秀寺ノ地下ニ眠リ春風秋雨唯一人ノ之ヲ訪フ者モナイガ願クハ其英魂ヲ慰ムル友ノ現レ出デン事ヲ望ムノデアル人生ハ短シト雖ドモ翁ノ斯界ニ貢獻シタ偉大ナ功績ハ長ヘニ後世ニ傳ハリ敢テ滅盡スル期ハナイト思フ

○醫學文學博士富士川游先生著『西洋民間藥』ヲ私議ス

(但シ其植物ニ關スル部分ノミニ就テ)

久 内 清 孝

博士富士川先生ノ著ニ『西洋民間藥』アリテ泰西民間ニ行ハル、生藥ヲ記セリ之ヲ先生曩ニ著ス所ノ本邦民間藥ニ較ブルニ其體裁之ニ比シ甚ダ便ナリト雖書中採用セラレタル和漢名ノ多クハ今日慣用ノモノト異ル所鮮ナカラズ、否、其數勝テ數フベカラズ是レ吾人ノ頗ル意外トスル所ニシテ後進ノ徒ヲシテ憑ル所ニ迷ハシムル事大ナリ竊ニ疑フ是レ或ハ先生ノ令名ヲ借り緒鞭ノ學ニ精通セザル者ノ故ラニ爲セシ所ニアラザルナキ乎ヲ、民

間藥ノ利用研究ノ盛ンナル今日博士ノ如キ大家ノ名ニヨリ斯ノ如キ鹵莽ノ書ノ出現ヲ見ルハ蓋シ昭代ノ不祥事ニシテ獨嘯菴先生ノ語ヲ借りテ言ヘバ不知不識賊人通計之於日日三五人者蓋不爲少生涯則幾千人乎ノ感ナキ能ハザルナリ

東都植物分類ノ學ニ從フモノ乏シカラズ之ヲ東大ニ需ムレバ牧野、中井ノ碩學アリ民間亦武田久吉氏ノ如キ偉材アリ先生或ハ先生ノ名ヲ借ル者此著ヲ作スニ當リ預メ是等ノ士ニ諮ルノ勞ヲ吝ムコトナカリセバ則チ此書恐クハ何等私議ヲ許サルモノトシテ東都ノ紙價ヲ高ムルニ足ルモノトナリシハ敢テ吾人ノ疑ハザル所ナリ、而カモ事實上ノ著者ガ此點ニ留意セザリシハ誠ニ千秋ノ恨事ト謂フベシ

以上言フ所抽象的ナリト雖誌面狹隘ニシテ具體的ニ指摘スルヲ容サズ然リト雖私議スベキ事項ノ極メテ多キハ更メテ言フマデモナシ發行者吐鳳堂ハ宜シク富士川先生ノ名譽ノ爲メ併テ本邦學術ノ權威ヲシテ失墜セザラシメンガ爲メ市上ニ流布スル殘本ヲ收集メ之ヲ秦火ニ付スルノ英斷ニ出ヅルト同時ニ紙型ヲ改訂シ更メテ先生ノ閱ヲ請ヒ余ノ如キ白面ノ書生ヲシテ一指ヲダニ指ス能ハザラシムルヤウ適當ノ手段ヲ講ズベキナリ是レ發行者ノ執ルベキ當然ノ處置ナリト信ズ

試ミニ數例ヲ左ニ列記スレバ [*Euphrasia officinale* L. コハメグサ] 實ハこゝめぐさノ一種ニテ日本ニ無キモノ、 [*Betula alba* L. 白樺] 實ハ日本ニ無キモノ、 [*Polypodium vulgare* L. オシヤゴシグンダ] 實ハえぞでんだナラザルミカラズ、おしやごじでんだハ日本ノ特産ヲマツテ學名ハ *Polypodium japonicum* Maxon. ナリ、 [*Gentiana lutea* L. 龍膽] コノ植物ニ此漢名ハ不當、 [*Pimpinella saxifraga* L. 地榆] 學名ハ繖形科植物ニテ漢名ノモノハいばら科 (薔薇科) ノ植物、 [*Sambucus ebulus* L. 蒴藋] コノ學名ノモノ日本ニ無シ、以上十四頁マデニ散見セシモノ、以下略ス

○いちぬがしノ實カラ製シタ珍食品